

# 腰痛、介護負担感の改善を目指して

移乗支援介護ロボット: Hug T1, マッスルスーツEveryを試用して



かご  
＼ロボ／ 2024

令和6年度 鹿児島県介護生産性向上総合相談センター

【施設名】 グループホーム愛愛

グループホーム愛愛（株）プログレス

開設年月日 平成15年7月10日

所在地 鹿児島県鹿児島市吉野町2丁目36番地15号

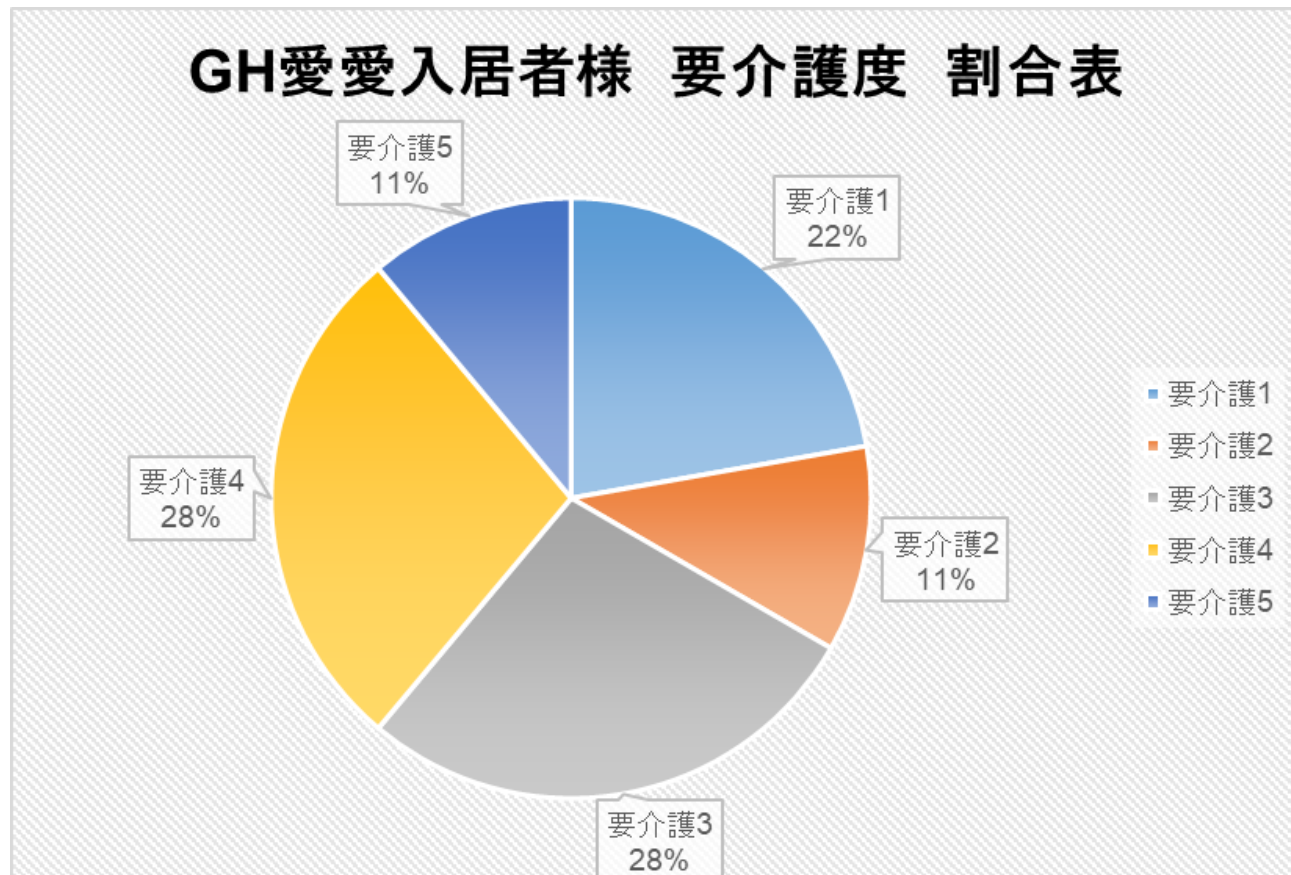
定員 18名（2ユニット制 1ユニット9名）

平均介護度 2.94（入居者 18名 11.28現在）

協力医療機関 かわもと記念クリニック 伊敷病院



要介護	割合 (%)	人数	
要介護1	22%	4	人
要介護2	11%	2	人
要介護3	28%	5	人
要介護4	28%	5	人
要介護5	11%	2	人
平均介護度	2.94	18	人



○全体介護度が高く身体介助多い。 ※R6.11.28現在

# 取り組み全体の流れ

かご  
＼ロボ／ 2024

## パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

## プロジェクトの流れ

<p>8月1日：伴走支援合同説明会 キックオフ宣言</p> <p>8月12日：PJリーダーとの打合せ</p> <p>8月21日：課題の見える化</p> <p>8月22日～：改善方針シートの作成</p> <p>9月11日：取り組み課題の選定</p> <p>9月14日：介護ロボット体験（かごロボ）</p> <p>10月7日～：問題解決の道筋シート作成 実行計画の作成</p> <p>10月16日～：腰痛アンケート（試用前）</p> <p>10月17日～：タイムスタディ調査</p> <p>10月23日：試行的導入の準備会議</p>	8～10月
<p>11月1日～11月9日：試行的導入 施設マニュアル作成</p> <p>11月11日～29日：本格的導入</p>	10～11月
<p>12月4日：介護ロボットの運用評価確認</p> <p>12月5日～：腰痛アンケート（試用後）</p>	12月
<p>12月5日～：取り組みの振り返りと次の課題の解決に向けての計画の練り直し</p>	12～1月

## パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

## 施設長によるキックオフ宣言（8月1日）

## プロジェクトチームの立ち上げ（8月5日）

- プロジェクトリーダー：介護支援専門員（副管理者）
- サブリーダー：介護福祉士
- 調査担当：介護職員
- 研修担当：介護福祉士
- マニュアル担当：介護福祉士
- 事務担当：介護福祉士



# 手順2 現場の課題を見える化しよう (1 / 7)

## 課題抽出：ブレインストーミング (8月21日)

原因 (健康とサポート体制)

【健康とサポート体制について】

腰痛	腰痛	腰痛	腰痛
背部痛	腰痛	腰痛	手の痛み
足の指は 開きかけて 協力依頼	足の指の動き	体力不足	体力不足
腰痛	腰痛	腰痛	腰痛

業務の問題・コミュニケーション

利用者の介護度

介護スキル

【業務内容・プロセス・効率について】

原因 (業務内容、プロセス、効率)

打ち手 (健康とサポート体制)

【業務内容・プロセス・効率について】

電子機器への不慣れ  
抵抗感

勤務体制の問題

勤務時間の問題

原因 (チームワーク)

個人の課題

組織の認識

情報伝達ツールの活用の課題

【労働環境について】

原因 (労働環境)

職員の意識

環境改善のプロセスの課題

打ち手 (労働環境)


【チームワークと協力について精神的負担...】

研修

意思伝達  
フローの改善

業務プロセスの改善

職場環境の改善3S



# 手順2 現場の課題を見える化しよう (2/7)

## 改善方針シート

	課題 1)	課題 2)	課題 3)	課題 4)
改善する課題	職員の腰痛	業務内容の不平等感、業務プロセスの問題	【労働環境の問題】 休憩のとりづらさ、整理整頓ができていない、労働時間が守られていない(残業)	ホウ・レン・ソウの連携不足
課題分析	<p>1)浴槽へ移乗時やトイレへの移乗動作時に腰痛が起こりやすい</p> <p>2)下肢筋力が弱く、全介助の入居者やスタッフより体格の良い入居者の移乗時に負担がかかる。</p> <p>(移動能力) 独歩11%、歩行介助28%、車椅子(見守り含む)39%、2人介助22%</p> <p>3)移動式リフトを試用したことがあるが、居室が狭く、リフトの脚部がベッドの下部に入らず、使用しにくかった。</p> <p>4)介護スキル問題～特に未経験で入職したスタッフに介護技術を教える時間が足りない</p> <p>5)日中、3人(うち1人は調理担当)、夜間は1人で介護業務しており、それぞれ入居者に対応している為、移乗介助応援を求めづらい</p>	<p>1)業務内容に不平等さを感じている人は少ないが、介護業務、計画作成や書類整理、発注などそれぞれ分担しており、通常の介護業務と業務している。分担業務量や業務中にできないこともある。</p> <p>2)記録業務の問題については、手書きの記録、電子機器の記録、介護請求や計画作成のソフトが一体化されていない。これについては、現在、介護ソフトの見直しを検討中。</p> <p>3)電子機器への不慣れ、抵抗感がある。</p> <p>4)夜間、各棟に1人ずつしかスタッフがいない為、緊急時の応援体制に不安がある。</p> <p>・見守り業務で休憩がとれない。</p> <p>・記録が終わらず、残業することがある。</p> <p>・日中2人で介護業務をしているが、1人は記録をしてもう1人は排泄介助など介護業務をしていることがあり、記録入力に時間がかかると介護業務に入れず、片方に負担がかかる</p> <p>汚染の処理・清潔の問題があるか？→トイレ清掃時の雑巾は、ハイター使用しているとはいえ、汚れているので不衛生に思う</p> <p>業務改善会議はしているか？→現在実施していないが、今後設立予定。</p> <p>介護ロボット試用体験はあるか？→</p> <p>現在のどの介護ソフトを使用しているか？→介護記録、請求・ケアプランは別のシステム。補助金の活用を希望。</p>	<p>【職員の意識】</p> <p>休憩を取ろうという意識の問題、とりづらい雰囲気がある</p> <p>研修会等への参加が少ない</p> <p>整理整頓ができていない</p> <p>【ハードの問題】</p> <p>休憩室がない(ゆっくりと休憩できる場がない)</p> <p>施設が古い、においの問題</p> <p>1号棟には休憩室があるが2号棟にはない。</p>	<p>職員で意見が一致しない</p> <p>業務に対する認識が異なる</p> <p>入居者に対する理解・対応が共有できていない</p> <p>情報共有できていない</p> <p>業務内容をうまく伝達できない</p> <p>コミュニケーション不足</p> <p>連携不足</p> <p>ラインワークスを使いこなせていない</p> <p>ラインワークスでどういった情報を共有していいかわからない</p>
改善活動案	<ul style="list-style-type: none"> <li>腰痛アンケートの実施</li> <li>メーカーによる試用説明会の開催</li> <li>非装着型移乗ロボットの検討</li> <li>かごロボ訪問→移乗支援介護ロボットの試用体験</li> <li>移乗技術改善研修会～関連施設のリハ職に協力要請</li> <li>腰痛体操(体幹ストレッチ、筋力改善を業務プロセスに組み入れる)→リジューKMS利用検討、または自主的に腰痛改善(予防)体操5分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護ソフト1本化への検討→検討中</li> <li>見守り機器の検討→かごロボ訪問</li> <li>記録を音声入力してみる→案内</li> <li>介護記録についての勉強会開催</li> <li>タブレット(介護記録アプリ)講習会</li> <li>感染症・衛生管理の研修会実施(後日確認)</li> <li>タイムスタディ実施(直接業務・間接業務の見える化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼食休憩30分、16時から30分休憩をとることへの徹底</li> <li>労働時間に関する、休憩、教育訓練の実施</li> <li>勤務間インターバル制度等の検討</li> <li>心理的安全性の高い職場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日10分間ミーティングを行う</li> <li>インカムの検討(排泄ケア・入浴ケア時の応援等)</li> <li>→介護ソフトとのシステムの連動性を確認したうえで検討</li> <li>カンファレンスの実施(ケアの目標の共有)</li> <li>→共有する情報の整理(優先付け)</li> <li>lineワークスの勉強会の開催(施設マニュアルの作成等)</li> <li>職員の教育システムの見直し</li> </ul>
実施する改善活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>移乗支援介護ロボットを試用体験し、評価する</li> <li>委員メンバーで試験運用し、評価、改善点をあげる</li> <li>改善された内容で施設全体に共有し、運用を試みる</li> <li>ラインワークスのアンケート機能を活用し、月1回実施する。腰痛レベルのチェックを行う</li> <li>毎朝の申し送り後にラジオ体操実施</li> <li>マニュアル作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内で見守り機器の試用運用してみる</li> <li>タイムスタディの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼食休憩に入る際に時間と休憩に入る旨を声に出す</li> <li>・16時から休憩するように各棟のリーダーが時間になったら呼びかける</li> <li>・マニュアル作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラインワークスで申し送り重要度別のグループを作成</li> <li>・インカムは新しく導入する介護ソフトが決定し次第検討</li> <li>ラインワークスに替わるビジネスチャットツールの導入検討</li> </ul>
課題解決の取り組み優先度	1	2	3	4
課題の難易度 (3難・2普・1易)	1	3	3	2
担当者				



### 腰痛に関して考えられる要因

#### 1. 移乗困難な対象者 (表1)

下肢筋力が弱く、大柄な入居者の移乗時に負担がかかる。特に浴槽への移乗やトイレへの移乗介助時に腰痛が起こりやすい。

#### 1. 環境の問題

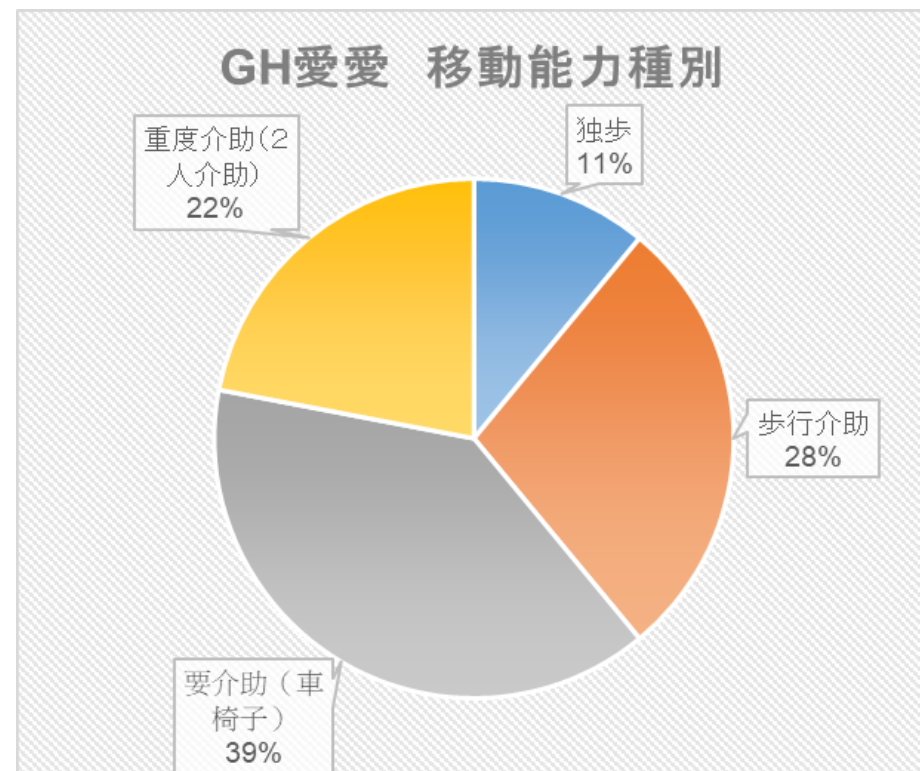
居室が狭いため、移動式リフトは使いづらかった。

#### 1. 介護スキル

スタッフ (特に未経験者) に介護スキルを教える時間が足りていない。

#### 1. 業務形態

日中、3人 (うち1人は調理担当)、夜間は1人で介護業務しており、それぞれ入居者に対応している為、移乗介助応援を求めづらい



独歩 11%、歩行介助 28%、車椅子 (見守り含む) 39%、2人介助 22%

### 腰痛課題への対策

#### 1. 腰痛調査、腰痛アンケートの実施

- ・どのような場面で腰痛が生じているか等々の詳細把握

#### 2. 非装着型移乗ロボットの検討・選定・メーカー説明

- ・かごロボ訪問→移乗支援介護ロボットの試用体験
- ・メーカーによる試用説明会の開催

#### 3. 移乗技術の改善指導

- ・協力医療機関リハ職による指導
- ・腰痛体操（体幹ストレッチ、筋力改善を業務プロセスに組み入れる）

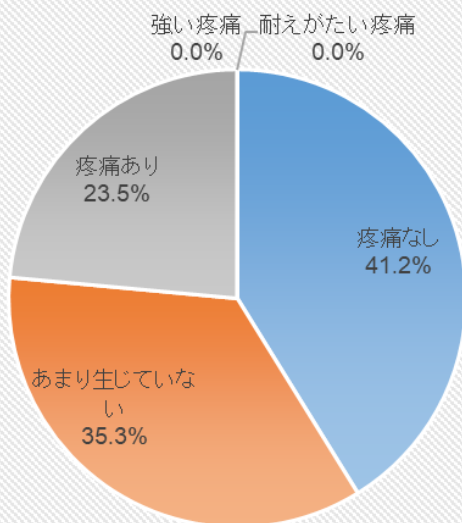
#### 4. 情報共有

- ・スタッフ間でサポートが生じる可能性がある利用者様を明確化し、随時会議等で情報共有を図る

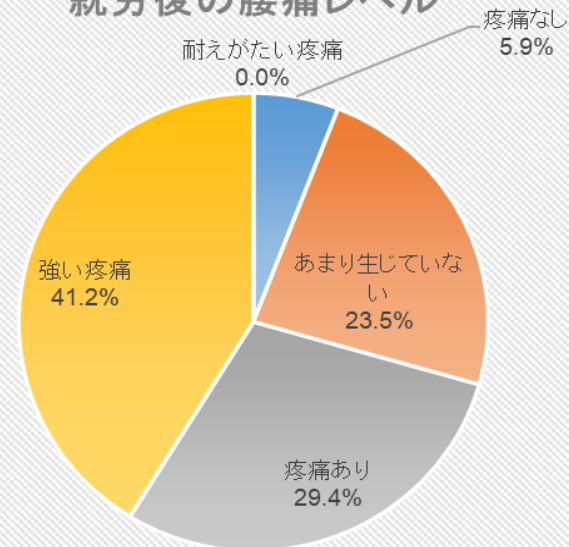


## 手順2 現場の課題を見える化しよう（5／7）

### 安静時の疼痛レベル



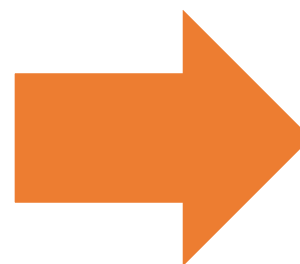
### 就労後の腰痛レベル



○安静時は疼痛レベルが低いという回答が多いが、就労後になると疼痛が強い割合が極端に増えている。

○安静時にも疼痛があるスタッフは業務後には強い痛みへ変化している傾向が読み取れる。

○業務での身体負荷が高い傾向にある



### 業務内容の不平等感、業務プロセスの問題

#### 1. 記録業務の重複

介護記録、請求・ケアプランのシステムが別々で、記録が  
終わらず残業

#### 1. 移乗業務や見守り業務の負担

#### 2. 電子機器への不慣れ、抵抗感

#### 3. 清掃などの衛生面

#### 4. 介護業務の重複

日中2人で介護業務をする場合、1人は記録業務を兼務し  
ていると片方に負担がかかる。

### 業務内容の不平等感、業務プロセスの問題への対策

1. 介護ソフトの1本化
2. 見守り機器や移乗介護機器の検討  
→かごロボ訪問実施
  
1. 音声入力で記録してみる
2. 介護記録についての勉強会開催  
→タブレット（介護記録アプリ）講習会
  
1. 感染症・衛生管理の研修会実施
2. タイムスタディ実施（直接業務・間接業務の見える化）

# 手順3 実行計画を立てよう (1 / 6)

問題解決の道筋シート		
深堀原因	移乗場面における職員の体力不足、スキル不足によって「ムリ」をすること	に対し
業務改善の取組 (打ち手)	移乗支援介護ロボットの導入	を実施することにより
好転換された 深堀原因	「ムリ」な移乗介助が少なく	(と) なり
原因	腰痛、介護負担感	(という) 問題が解消・軽減され
結果	就業継続困難 (腰痛・体力不足で働けない) と思う職員	がなくなり
悪影響	移乗時の不安、人手不足、業務負担の不平等感	の改善が期待できる。

### 介護ロボットの選定の要件

- ・ 腰痛や疲労感などを軽減できること。
- ・ 一人介助でトイレ移乗支援ができること。
- ・ 夜間時や人手が少ない時に心理的安心感が得られること。

### 試用前評価

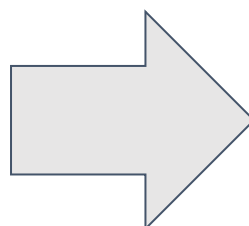
- ・ 腰痛アンケート（10月16日～10月31日）⇒結果は後述
- ・ タイムスタディ（10月17日～10月28日）⇒結果は後述

# 手順3 実行計画を立てよう (3 / 6)

## かごロボ見学 (9月14日)



Hug T1、マッスルスーツ  
Everyの試用を決定



試用貸出の依頼

- ・ Hug T1 (10月24日)
- ・ マッスルスーツEvery (10月24日)



### 実行計画（試行的導入）の立案（10月7日～10月23日）

試行的導入期間(11月1日～11月9日)

- ①主な使用場面は居室とトイレなどを想定
- ②担当スタッフが試用

試行的導入における対象者

＜＜対象者の要件＞＞

- ・ 体格が大きく、端坐位保持が可能で、下肢の支持性が低い方
- ・ 立ち上がりは可能だが、歩行が困難な方
- ・ 立位保持が数秒程度の方
- ・ 筋力低下、寝たきりに近い方

＜＜職員の要件＞＞

- ・ 移乗介助を行う職員
- ・ 筋力が弱い職員

## メーカー研修会の実施

**Hug T1** : 10月31日

- オンライン：参加者4名  
機械の操作方法、メンテナンス方法（充電）、試用時の対象者の姿勢・足の位置や動作、アームの角度の確認、使用上の注意
- 試用する職員は必ず説明を受けてから使用することとした。



**マッスルスーツEvery** : 11月14日

- オンライン：参加者4名  
機械の操作方法、メンテナンス方法、装着方法とコツ、使用上の注意
- 試用する職員は必ず説明を受けてから使用することとした。



## 介護ロボットの試行的導入 (Hug T1 : 11月1日~11月9日)

試行的導入開始に向け、施設用ミニマニュアルを作成

試行的導入開始！  
Hug T1 居室にて



Hug T1 トイレにて



Every 居室にて



P（改善活動の準備、現場の課題を見える化、実行計画）  
試行的導入の段階で苦労した点・工夫した点

かご  
＼ロボ／ 2024

- （苦労）使いこなせる職員もいたが、うまく使えない職員もいた（Hug /Every）。
- （工夫）使いこなせる「角度」「位置」について職員から再度指導を受けた。
- （苦労）導入当初、使用中に「怖い」「痛い」と訴える入居者（認知症あり）がいた（Hug）。
- （工夫）その入居者には使用しないことを決めた。
- （苦労）Hugにつかまったものの、移動中にHugから離れようとした入居者（認知症あり）がいた（Hug）。
- （工夫）その入居者には使用しないことを決めた。上記のような入居者の情報を職員全体で共有した。

## パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

## 施設用マニュアルの改定

### Hug 移乗・移動マニュアル

☆ 電源をいれる Hug の正面にあります。



保管場所: 二号棟の玄関 棚の横  
バッテリー: 玄関 棚の上  
※充電は夜間帯に行いましょう



### 移乗

#### ① 高さ調整

利用者様の脇の下に、身体保持部バーがくるように【+】ボタンで調整する。



#### ② Hug をセットする

フットプレートに足を置き、ひざパッドが触れるまで近づける。※ブレーキをかける



身体保持部バーの高さ調節は、リモコンの【+】【-】ボタンで!

利用者様に大ハンドルを両手でつかんで頂き  
身体保持部に体重をかけるように上体を乗せる



前方下のキャスターでブレーキ



### 移動

移動の前に確認!!

- ・身体保持部バーが脇下に触れている
- ・胸が身体保持部に密着している
- ・足がフットプレートに乗っている
- ・膝が膝あてにあたっている

#### ③ 立ちます・ブレーキ確認

【たつ】ボタンを押して、起立します。(長押し)  
※上げすぎに注意  
☆前傾姿勢になるように  
☆かかたが浮かないように



#### ④ ゆっくりと移動

介助者は横に立ち、声かけ行いながら手添えにて支える。  
不安な場合は、後ろに回りこむ。



#### ⑤ Hug から下りる

利用者様の、ひざ裏が移動先の座面に触れるまで誘導し調整する。  
ブレーキをして  
【すわる】ボタンを押して座らせる  
しっかりと座れていることを確認して上体を起こして、ブレーキを外し足をおろす。



#### バッテリーの扱い方法

①電源を切る



②持ちてを持って手前に引き抜きます



③充電ステーションにセットする



# 手順4 改善活動に取り組もう (2 / 4)

## マッスルスーツ Every 装着マニュアル

保管場所：一号棟の応接室  
応接室内のハンガーラックに  
下げています。使用後は、同じ  
場所に下げて下さい。



① リュックのように背負い、  
肩ベルトのアジャスタで腰ベルトを  
腰の高さにくるように調節します。



② 腰ベルトをしめた後、  
左右のアジャスタでしっかりと  
引きしめます。



③お尻ベルトの長さを調節し  
太ももパッドを前にまわします



④左側にある空気入れて  
30~45回程度ポンピングし  
空気を入れます



太ももパッドに  
ギュっと圧が  
かかってきます。  
頑張りましょう！

⑤背中との隙間を肩ベルトの  
アジャスタで調整します。



こぶし一個  
入る程度の  
余裕を開ける

太ももパッドを外す足を  
後ろに一歩引きます

☆太ももパッドは、  
後ろに足を引いて、斜め後ろに  
向かって外すと外しやすいです



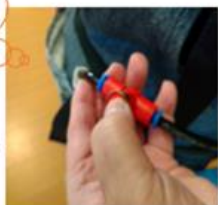
⑦サポートをスタート  
する前に...



- ・背中や胸周りはキツくないですか。
- ・お尻は 2本のベルトが上下にきていますか。
- ・膝を曲げた時に、太ももパッドに圧を感じますか。
- ・それぞれの箇所のアジャスタで、調整を行きましょう。

中央の突起部分を  
押すと、プシューと  
空気が抜けます

☆空気量の調整や  
空気を抜く時には左側にある  
赤い排気弁で調整します



## 介護ロボットの本格的導入開始！

Hug T1  
(11月11日～11月29日)



マッスルスーツEvery  
(11月14日～24日)





## パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

# 手順5 改善活動を振り返ろう (1/7) マニュアルの改善

## Hug 移乗・移動マニュアル

☆ 電源をいれる Hug の正面にあります。



保管場所: 二号棟の玄関 棚の横  
バッテリー: 玄関 棚の上  
※充電は夜間帯に行いましょう



### 移乗

Hug をセットする際、プレートが足に接触しないように

身体保持部バーの  
高さ調節は、リモコンの  
【+】【-】ボタンで!

#### ① 高さ調整

利用者様の脇の下に、身体保持部バー  
がくるように【+】ボタンで調整する。



#### ② Hug をセットする

フットプレートに足を置き、ひざパッドが  
触れるまで近づける。※ブレーキをかける



利用者様に大ハンドルを両手でつかんで頂き  
身体保持部に体重をかけるように上体を乗せる



前方下のキャスター  
でブレーキ



### 移動

移動の前に確認!!

- ・身体保持部バーが脇下に触れている
- ・胸が身体保持部に密着している
- ・足がフットプレートに乗っている
- ・膝が膝あてにあたっている

#### ② 立ちます・ブレーキ確認

【たつ】ボタンを押して、  
起立します。(長押し)  
※上げすぎに注意  
☆前傾姿勢になるように  
☆かかたが浮かないように



#### ④ ゆっくりと移動

介助者は横に立ち、声かけ行いながら  
手添えにて支える。手を添えて安心させよう!  
不安な場合は、後ろに回りこむ。



#### ⑤ Hug から下りる

利用者様の、ひざ裏が移動先の座面に  
触れるまで誘導し調整する。  
ブレーキをして  
【すわる】ボタンを押して座らせる  
しっかりと座れていることを確認して  
上体を起こして、ブレーキを外し  
足をおろす。



#### バッテリーの扱い方法

①電源を切る



②持ち手を持って  
手前に引き抜きます



③充電ステーション  
にセットする



# 手順5 改善活動を振り返ろう (2/7) マニュアルの改善

かご  
＼ロボ／ 2024

## マッスルスーツ Every 装着マニュアル

保管場所：1号棟の応接室  
応接室内のハンガーラックに  
下げています。使用後は、同じ  
場所に下げて下さい。



① リュックのように背負い、  
肩ベルトのアジャスタで腰ベルトを  
腰の高さにくるように調節します。



② 腰ベルトをしめた後、  
左右のアジャスタでしっかりと  
引きしめます。



③お尻ベルトの長さを調節し  
太ももパッドを前にまわします



④左側にある空気入れて  
30~45回程度ポンピングし  
空気を入れます



太ももパッドに  
ギュっと圧が  
かかってきます。  
頑張りましょう！



こぶし一個  
入る程度の  
余裕を開ける



⑤背中の際間を肩ベルトの  
アジャスタで調整します。

⑥胸前の左右アジャスタを  
しめます。

⑦サポートをスタート  
する前に...



- ・背中や胸周りはキツくないですか。
- ・お尻は 2 本のベルトが上下にきていますか。
- ・膝を曲げた時に、太ももパッドに圧を感じますか。
- ・それぞれの箇所のアジャスタで、調整を行きましょう。

中央の突起部分を  
押すと、プシューと  
空気が抜けます

☆空気量の調整や  
空気を抜く時には左側にある  
赤い排気弁で調整します



太ももパッドを外す足を  
後ろに一歩引きます

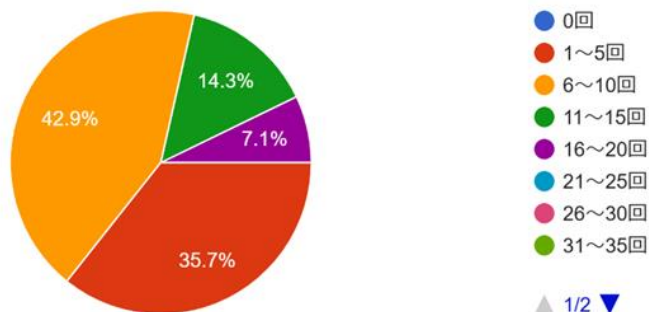
☆太ももパッドは、  
後ろに足を引いて、斜め後ろに  
向かって外すと外しやすい  
無理に外さないように



## 腰痛アンケート結果 (試用前)

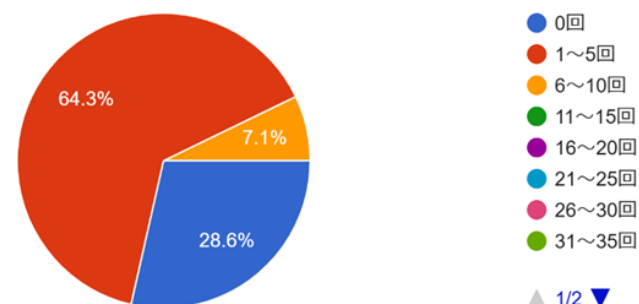
4) あなたは一日に何回くらい「ひとりで」移乗介助をしますか？

14件の回答



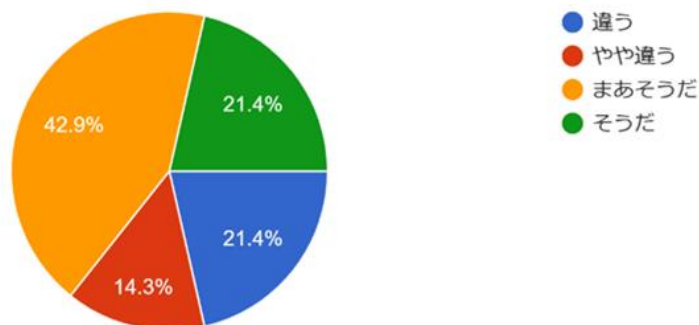
5) あなたは一日に何回くらい「ふたり以上で」移乗介助をしますか？

14件の回答



7) 腰や膝の痛みは離職 (退職) の原因となるとお考えですか？

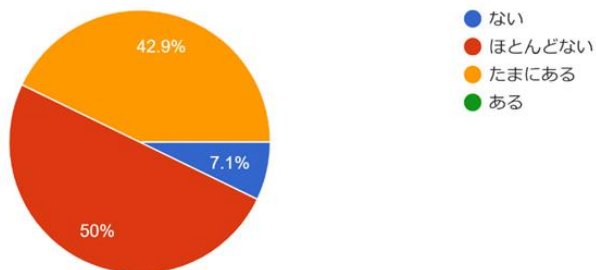
14件の回答



## 腰痛アンケート結果（試用前後）

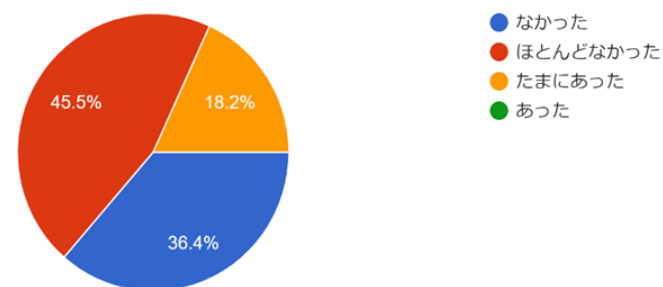
1) 移乗介助の際にひやりとすることがありますか？

14件の回答



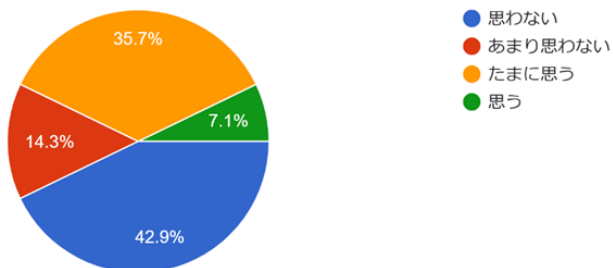
1) 介護ロボットを用いた移乗介助の際にひやりとすることがありましたか？

11件の回答



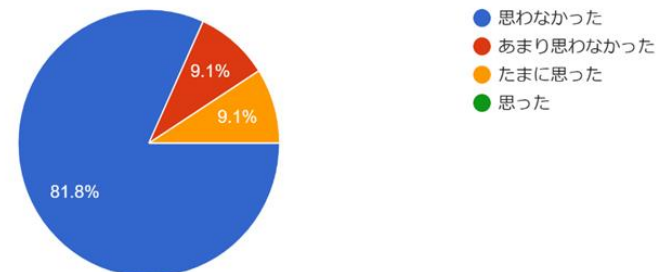
3) 体格の大きな利用者（患者）に対し移乗介助をしたくないと思いませんか？

14件の回答



3) 介護ロボット試用期間中に体格の大きな利用者...）に対し移乗介助をしたくないと思いませんか？

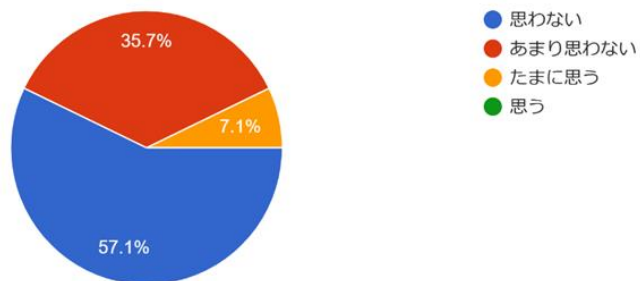
11件の回答



## 腰痛アンケート結果 (試用前後)

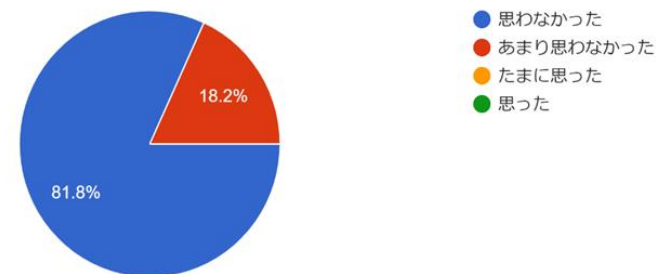
7) できれば移乗介助業務を避けたいと思いますか？

14件の回答



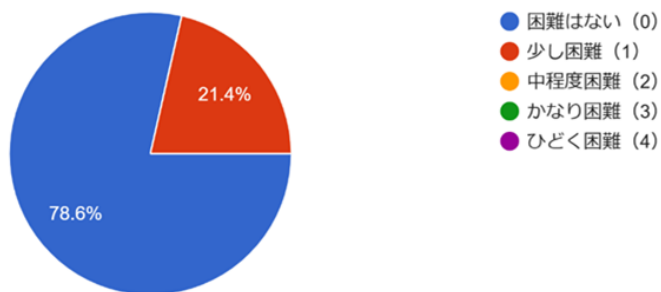
7) 介護ロボット試用期間中にできれば移乗介助業務を避けたいと思いましたか？

11件の回答



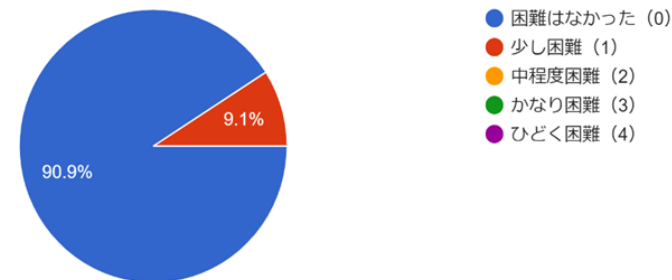
7) この数日間、腰痛のため、からだを動かすのはどの程度困難ですか？

14件の回答



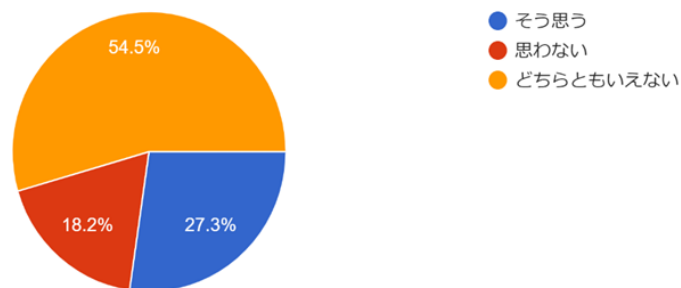
7) 介護ロボット試用期間中に、腰痛のため、からだを動かすのはどの程度困難でしたか？

11件の回答

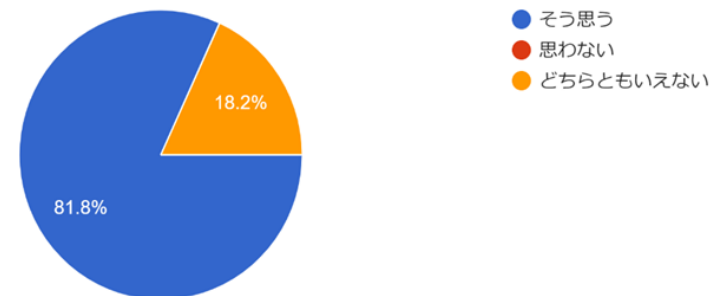


## 腰痛アンケート結果 (試用後)

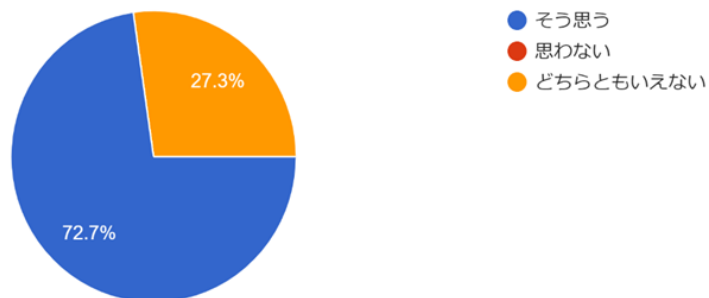
15) 介護ツールの選択肢として介護ロボットを用意することは施設の責務だと思いますか？  
11件の回答



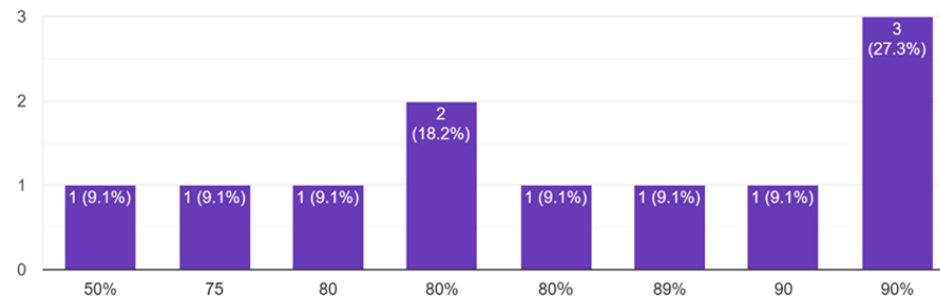
16) 介護ロボットを用意することは職員離職率低減に貢献と思いますか？  
11件の回答



17) 介護ロボットを用意することは求人に関係すると思いますか？  
11件の回答

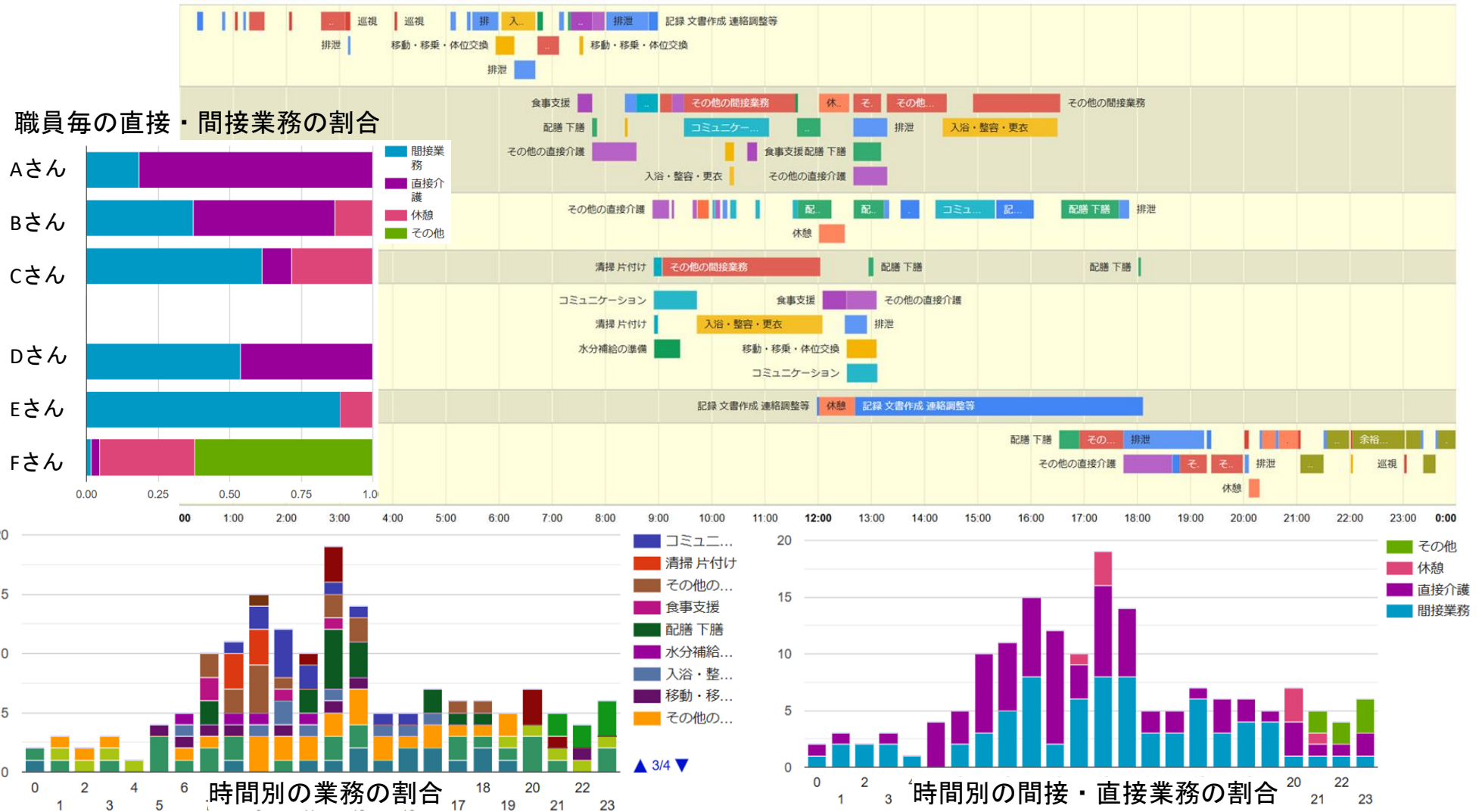


18) 病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として介護ロボットを試用中の自身の仕事を評価してください。回答例 75%  
11件の回答



# 手順5 改善活動を振り返ろう (7/7)

## タイムスタディ調査の一例 (金曜)





## パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

### Positive

- ・ 痛みや不快感を訴える入居者はいなかった（Hug / Every）。
- ・ 試用期間中、職員の腰痛訴えはあまり聞かなかった（Hug / Every）。
- ・ 入居者18名中、2名の移乗介助については成果がみられた（Hug / Every）。

### Negative

- ・ 最終的に使いこなすところまでいかない職員もいた（Hug / Every）。
- ・ 二人介助を完全に一人介助にすることはできなかった（Hug / Every）。
- ・ 保管場所に取りに行くのに時間がかかり、利用しづらいと感じる職員もいた（Hug / Every）。

かご  
\\ロボ／ 2024 導入の成果



## 介護ロボット導入の成果

- Everyでは、中腰の姿勢が楽であり、腰痛が軽減した。
- Hugでは、職員の身体に負担がかからないので、腰痛はほとんどなかった。
- アンケート結果をデータ化してみると、介護負担なく業務に取り組めていた。

## チームとしての成果

- 始めに役割分担をすることで、それぞれが主体となって実行することができた。

## 今回の事業を通して

- 全員が一丸となって取り組むことで、職場の連携が深まった。
- 職員一人ひとりの意識が高まり、自己成長を促進する機会となったと思う。
- 作業の見直しや計画的なテクノロジー導入により、業務プロセスが効率化され、働きやすい環境が整うことが期待される。
- 今回の取り組みを通じて得られた事例やノウハウを、グループ内の他事業所にも伝授して欲しい。

かご  
＼ロボ／ 2024

